様式２の１

記　入　日　　2024 年 10 月 28 日
助成団体名　水俣病事件資料集編纂委員会

2023年度「水俣･熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	水俣病事件資料集続刊の刊行に向けた編纂
取り組み実施期間または日時	2019 年 10 月～2024 年 10 月（継続中）

【取り組み目的】

水俣病事件は、その規模の大きさと被害の深刻さにおいて日本を代表する公害事件である。医学的側面からもまた未解明な部分を多数残しており、社会的・政治的事件としての水俣病は、詳細な研究はこれからと言わざるをえない。水俣病研究会編『水俣病事件資料集 1926-1968』葦書房が刊行されたのは 1996 年であった。この資料集によって水俣病事件史研究に貴重な資料が提供された。ただし、1968 年で終わっており、水俣病研究会においても続巻編集の努力が続けられてきた。水俣病事件を初期から経験している方々が少なくなりつつある現在、喫緊の課題として資料集の編纂を企画した。

現在、水俣病研究会が収集した資料はもとより、熊本学園大学水俣学研究センター、相思社さらには各地の大学図書館や資料館に資料が収蔵されていることをふまえて、資料集の編纂を進めている。

2016 年に水俣病事件資料集編纂委員会をたちあげ、一次資料の蒐集をしてきた。1969 年以降の一次資料の蒐集と収録を行い、2025 年に 1 巻目の刊行開始を目指して、編集作業を進めている。コロナの影響で移動が制限されていたこともあり、一次資料の蒐集が当初の計画通りに進まなかったが、移動制限解除を受け、蒐集し、目録化と資料複写を行い、各担当者が網文作成に取り組んでいる。

【取り組み内容と成果】

続編として刊行する『水俣病事件資料集』の内容は、A5 版、700 頁、全 6 巻、本文 9P、出版社：弦書房、発行年：2025 年 3 月～2031 年 3 月（1 年に 1 巻ずつ刊行し、最終年度に年表の補冊を加えた 2 巻を刊行）で、研究計画にそって取り組んだ。

1）**時代区分の各担当者**：【1969 年 9 月 27 日－1973 年 7 月】高峰、【73 年 8 月－80 年 12 月】花田、【81 年 1 月－95 年 12 月】井上、【96 年 1 月－09 年 7 月】東島、【2009 年 8 月－2024 年】石貫・隅川　が資料収し原稿を作成。

2）**資料収集と見取図・資料カード作成**：2019 年 10 月～2024 年 10 月（継続中）

① 主な資料は「水俣病研究会蒐集資料」を基礎とし、各担当者で必要時資料を収集（2016 年から継続して実施）

② 個人で所有する資料は、複写を熊本学園大学水俣学センターで所蔵し、「高峰武旧蔵資料」など個人資料名をつけ④の作業を行う

③ 新聞記事資料は、熊本日日新聞社を基礎とし、コピーしたうえで目録化する
④ 収集した資料は、コピーして資料 NO をつけ、近代資料目録作成基準に則り目録を作成複写した資料は、文書箱に保存し、熊本学園大学水俣学研究センター資料室に配架することで、続刊刊行後に資料閲覧したい場合には誰もが閲覧できる環境を整える。この複写・整理・目録化の作業にアルバイトを雇用する
⑤ 各担当者は、不足分の資料を見取図（年表）で確認し、進捗状況を報告し意見を反映したうえで再度収集に努めることで偏りのない資料収集につとめる
⑥ 県議会議事録は、ネットで閲覧可能であり、収集したが、新型コロナウィルス感染拡大に伴い、原本にあたる作業ができていないため今年度喫緊の課題として取り組む
⑦ 年代不明のビラは、各担当者が「推定年・根拠」を A4 用紙に鉛筆書きし資料と一緒に保管し、進捗状況報告時にどのように整理し目録化するか検討する
⑧ 統一した原稿用紙に網文規約にそって作成し、原稿執筆を行い入稿の準備を整える
網文にそった年表になっているか編集作業を行う

今年度は、本研究助成を受けて 5 年ということもあり、上記作業をとおして水俣病事件史年表を典拠文献付きで作成してきたものを作業途中ではあるが形にすることで成果報告の一部とすべく簡易製本し 2024 年 10 月に刊行した。『水俣病事件資料集続編年譜』をみていただくと分かるが、資料を選定するのにかなりの時間を要している。それは様々な場所に資料がアーカイブされており資料を閲覧し複写、選定する当然やるべき作業を愚直に取り組んでいるからである。2025 年に刊行予定であったが、もうしばらく時間を要すものと考えている。

なお、編纂委員が対面で進捗状況を報告、担当年の不足している資料の収集にあたっている。収集した資料は、目録を作成し、整理したうえで、文書箱を購入し資料番号ごとに保管している。自己資金は、担当者の資料蒐集のための旅費や資料複写費、資料複写を取り寄せる通信費、資料整理後の資料を保存する文書箱費に充てた。

【備考欄】これまでの研究内容と今後の研究計画については次の通りである。

2019年度	各担当者による一次資料蒐集と見取図・資料カード作成し、月1回研究会で進捗状況の報告。個人の資料・新聞記事を複写し目録化。不足資料を見取図で確認し、再度資料蒐集にあたる。
2020年度	各担当者による担当年の原稿執筆、月1回研究会で進捗状況の報告。不足資料を研究会で確認し、再度資料蒐集にあたる。蒐集した資料は複写し目録化。
2021年度	各担当者による担当年の原稿執筆、月1回研究会で進捗状況の報告。不足資料を研究会で確認し、再度資料蒐集にあたる。蒐集した資料は複写し目録化。
2022年度	各担当者による担当年の原稿執筆、月1回研究会で進捗状況の報告。不足資料を研究会で確認し、再度資料蒐集にあたる。蒐集した資料は複写し目録化。
2023年度	各担当者による担当年の原稿執筆、月1回研究会で進捗状況の報告。不足資料を研究会で確認し、再度資料蒐集にあたる。蒐集した資料は複写し目録化。
2024年度	索引、年表作成、原稿のとりまとめ
2025年度	出版社に入稿、年1巻刊行（全6巻）、年表は補冊として2巻刊行